

■ 芦別の林業を知る「元気森森まつり」が盛大に開催される



5月24日と25日の2日間にわたって、「芦別林産フェスティバル元気森森まつり」が道の駅スタープラザ芦別特設会場で開催されました。

これは、林業のまち・芦別を市内外の人に知ってもらい、木に親しんでもらおうと毎年開催され、今年で11回目。

当日は天候に恵まれ、会場では、

子どもたちが巣箱作りや木のアクセサリー作りに挑戦したほか、丸太切り大会や市内の木工芸作家によるチェーンソーアートなどが行われました。また、市内の山林で採れたウドやフキなどの山菜を求めて、多くの市民の皆さんが行列をつくるなど、会場は大勢の人たちでにぎわっていました。

■ 毎日少しでも運動を。芦別市がチャレンジデー3回目にして初勝利

スポーツの振興を目的として、全国の自治体同士がスポーツ行事への住民の参加率を競う「チャレンジデー2014」（笹川スポーツ財団主催）が5月28日に行われ、芦別市が3回目の参加で初めて勝利しました。

今年の対戦相手は高知県宿毛市。芦別市では、ラジオ体操やウォーキング

など、15分以上の運動やスポーツに参加した市民の皆さんは5,686人。参加率は過去最高の35.9%となり、宿毛市の23.1%を上回りました。

市では、対戦相手の宿毛市に敬意を表して、5月29日から1週間、宿毛市旗を市庁舎ポールに掲げました。



■ 将来どんな職業につきたいかな？ 子どもたちがお仕事体験



「大人になったら、どんな仕事をしたいのかな？」。6月1日、一般社団法人・芦別青年会議所主催の「おしごとキッズタウン」が青年センターで開催されました。

小学生を対象に、将来やってみたい仕事を体験してもらおうと行われたもので、約80人が参加しました。

当日設定された職種は、大工、パ

ティシエ、消防士、警察官など9職種。市内の事業所や警察署、消防署などが協力しました。

子どもたちは、自分が希望する職業を選んで各コーナーに集まり、大工のコーナーでは実際に木材を切ったり、ネジを打ち込んだりするなど、慣れない手つきながらも大人の仕事の一端を体験していました。

■ 列車火災事故を想定し、滝里トンネルで災害総合訓練行われる

6月6日、JR根室線の滝里トンネルで、列車脱線・火災事故を想定した総合訓練が行われました。

これは、JR北海道が事故の際の乗客の避難誘導や消火活動手順など、事故への応急対策を確認するために行ったもので、芦別消防署と市職員も参加しました。

訓練は、富良野行きのリゾート列車

がトンネルに約250人入ったところで脱線し、火災が発生したとの想定で、車掌、運転士が乗客役のJR北海道社員ら約70人を車両から降ろしてトンネル外に誘導。また、芦別消防署の消防車と救急車が現場に駆け付け、消火、救急活動。さらに市職員が避難者の名前など確認、救護に当たり、現場は緊迫した雰囲気にも包まれていました。

